

秋田焼山の火山活動解説資料（令和5年5月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

GNSS 連続観測で認められていた 2020 年中頃からの秋田焼山を挟む基線の伸びの変化は、2022 年 12 月頃以降停滞している可能性があります。地震活動や噴気、地熱域等には特段の変化はみられません。地殻変動等の今後の火山活動の推移に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 30m 以下で経過しました。梅森監視カメラによる観測では、湯沼及び湯ノ沢上流で弱い噴気が認められました。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4、図 6）

GNSS 連続観測で認められていた 2020 年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）を挟む基線の伸びの変化は、2022 年 12 月頃以降停滞している可能性があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和5年6月分）は令和5年7月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の様（5月11日）

・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約2 km）の映像です。

叫沢源頭部からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

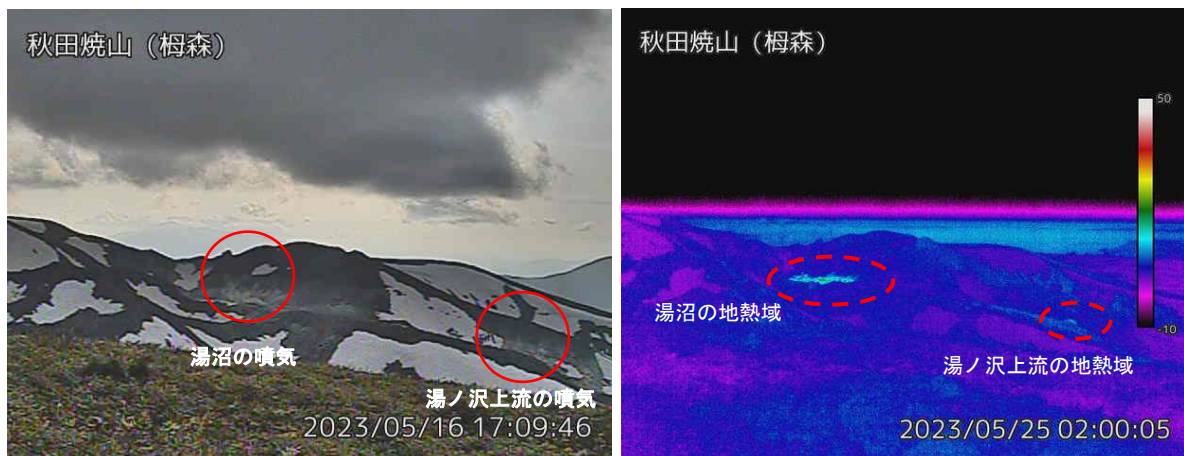


図2 秋田焼山 湯沼と湯ノ沢上流の様（5月16日）と地表面温度分布（5月25日）

・柵森監視カメラ（湯沼の東約1 km）の映像です。

湯沼及び湯ノ沢上流で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

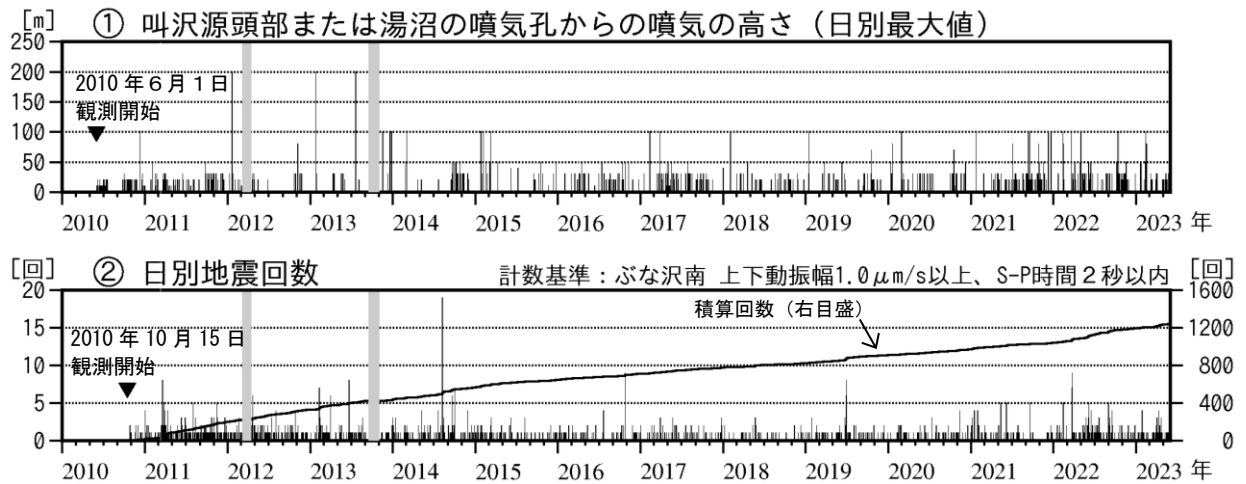


図3 秋田焼山 火山活動経過図（2010年6月～2023年5月）

- ・②2015年9月以降は山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（2010年から2015年8月までは山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を含みます）
- ・灰色部分は欠測を表しています。

今期間、噴気活動と地震活動は低調に経過しました。

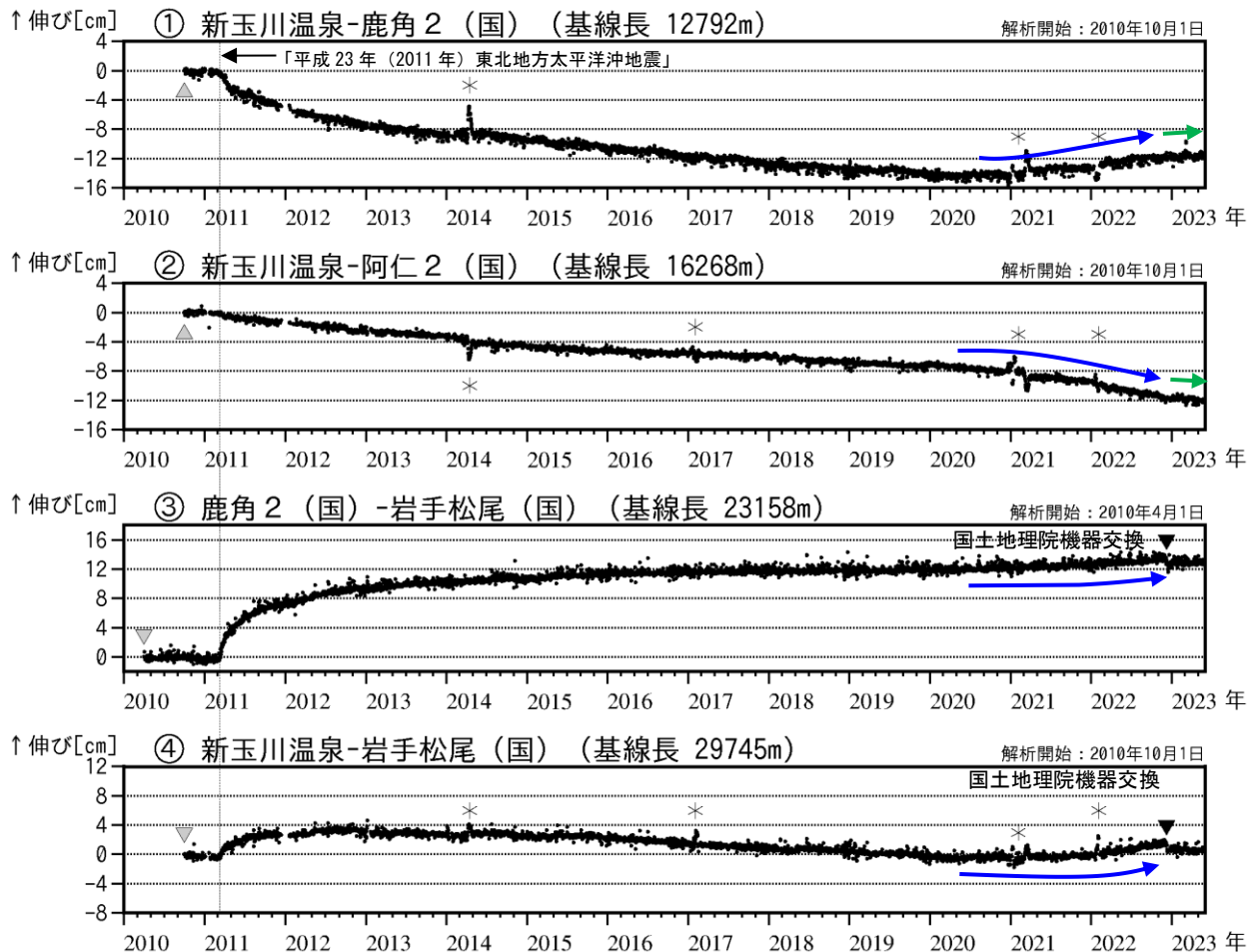


図4 秋田焼山 GNSS 基線長変化図（2010年4月～2023年5月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～④は図6のGNSS基線①～④に対応しています。▼▲：解析開始を示します。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。・（国）は国土地理院の観測点を表します。
- *：2014年3月から4月、2017年1月から2月、2020年12月から2021年3月及び2022年1月から2月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。

GNSS 連続観測で認められていた2020年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）を挟む基線の伸びの変化（青矢印）は、2022年12月頃以降停滞している可能性があります（緑矢印）。

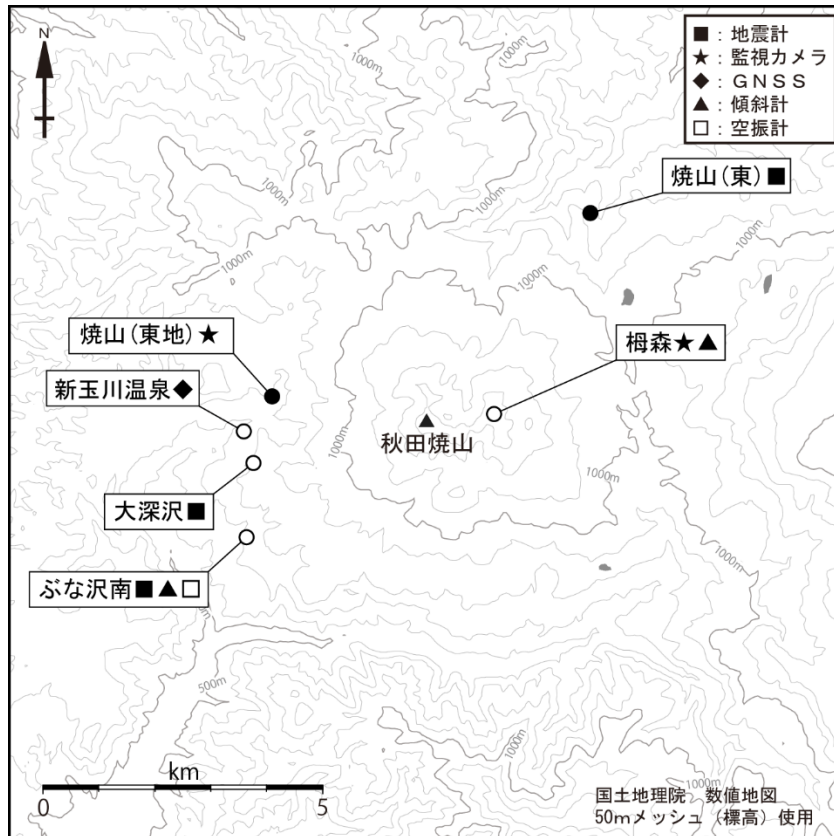


図5 秋田焼山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

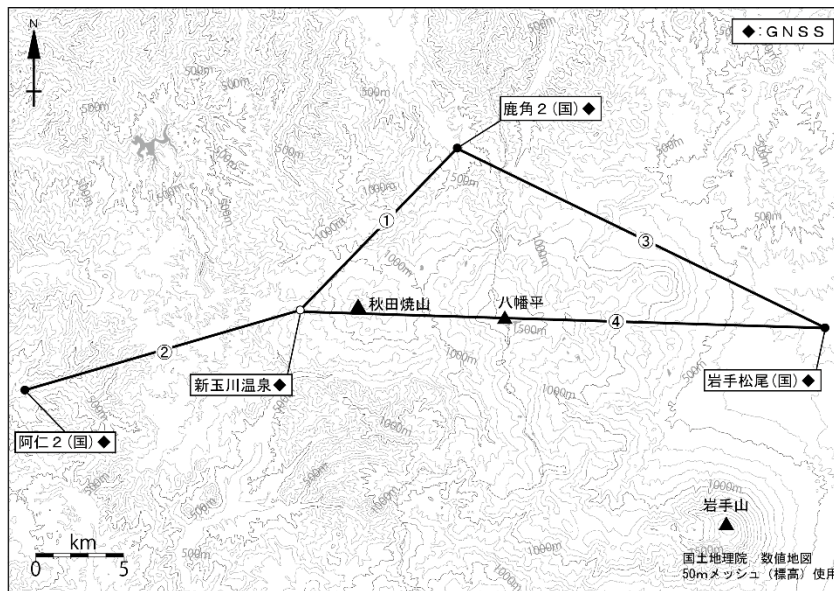


図6 秋田焼山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院